

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

別紙2
(議案第2号関連)

令和7年12月23日

協議会名: 常総市公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

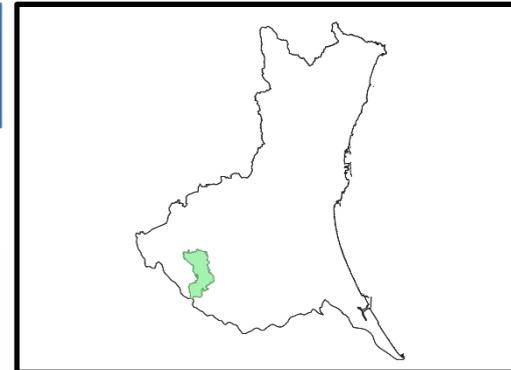
①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
京成タクシー(株)茨城支社	デマンド交通(常総市内全域)	<p>「導入している交通によって市民の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい」との前の評価結果について、令和7年9月に市民やデマンド交通利用者を対象にアンケート調査を実施し、利用目的や利用前後の外出機会の変化などを確認した。これらの調査結果や利用状況、目的地の集計データ等をもとに、デマンド交通のもたらす副次的効果の分析を進めている。</p>	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 目標とした1日平均利用者数71.0人に対し44.0人であり、目標を下回る結果となった。	<p>運行委託事業者が年々減少してきている中で、変わらずにサービスを提供していくためにも、サービス提供方法の見直しが必要である。</p> <p>令和6年度に導入したAIオンデマンドシステムの効果を測定しながら、限られた資源を有効に活用し持続可能なデマンド交通を実現していきたい。また、コミュニティバス等ほかの交通モードとの役割の明確化を図り、交通網の最適化を図っていきたい。</p>
(有)三妻タクシー		<p>「生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい」との評価結果について、市のホームページを活用し、利用方法や具体的な利用例を挙げて市民に周知を図っている。現在検討しているサービス提供体制の見直しを行う際には、改めて案内チラシを作成するなどして、広く周知することを検討する。</p>			
水海道ハイヤー(有)					

事業実施と地域公共交通計画との関連について

令和7年12月23日

協議会名：	常総市公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>常総市地域公共交通計画の基本的方針： 「あって安心，使って便利，みんなで支える公共交通～お出かけしやすく暮らしやすいまちづくりのために～」 コミュニティバスの新規運行を加えた多様な交通モードの連携・役割分担による公共交通網を構築する。</p> <p>上記を踏まえたフィーダー系統維持の目的・必要性： 当市は路線バスや鉄道が運行していない地域が広いため，市内の病院や商業施設などへの行き来が難しい。そこで，市全域に公平な移動手段を確保し，自宅玄関から目的地までドアトゥドアで送迎するサービスを実現するため，「予約型乗合交通ふれあい号」を運行する。コミュニティバス等他の交通モードとの役割を明確化し，交通網の最適化を図っていきたい。</p>

令和7年度 常総市地域公共交通活性化協議会（茨城県常総市） （地域内フィーダー系統確保維持事業）



地域の公共交通等の現況・課題／補助対象系統の位置付け

- ・市内と市外をつなぐ広域路線の役割を担う公共交通は、関東鉄道常総線の鉄道駅が7駅、路線バスが市内3路線3系統で運行されている。
- ・市内の移動を支える公共交通は、予約型乗合交通ふれあい号が運行しているほか、令和6年4月より、新たな地域公共交通としてJOYBUS（コミュニティバス）が運行を開始している。
- ・当該補助の対象系統である予約型乗合交通ふれあい号は利用者の需要に応じて経路を決める区域運行であり、鉄道や路線バス等を補完し、市内の交通空白地帯を解消する役割を担っている。
- ・JOYBUSは利用者数が伸び悩んでおり、継続して運行内容の最適化に向けた検討を行っている。
- ・予約型乗合交通ふれあい号は、近年運行事業者の廃業が相次いだことから、サービス供給量が減少している。

補助対象系統の需要・現況・課題／活用したデータ

当該系統は、市内全域を区域運行しており、病院やスーパーマーケットなどへの通院需要や買い物需要に対応しているほか、鉄道などの広域路線への地域内移動手段としても定着している。
近年、運行事業者の廃業が相次いだことからサービス供給量が減少し、予約のお断り件数が増加していることが課題である。
活用しているデータ:利用者データ、運行ログ、市民アンケート、高校生アンケート、運行事業者ヒアリング

定量的な目標

1日平均利用者数:71.0人/日

目標を達成するために行う事業の今年度実施状況／来年度に向けた取組の検討

運行事業者が年々減少してきている中で、引き続きサービスを提供していくためにも、令和6年12月に本格稼働したAIオンデマンド予約システムの効果を測定しながら、持続可能なデマンド交通実現に向けて検討を行っている。
今年度目標とした1日平均利用者数71.0人に対し実績は43.8人であり、目標値に到達しなかった主な要因としてサービス供給量の低下が挙げられる。
今後は、コミュニティバス等ほかの交通モードとの更なる役割の明確化を図りながら、車両の増車などサービス供給体制の強化や提供方法の見直しを検討し、交通網の最適化を図っていく。

アピールポイント

地域内のフィーダー（支線）交通を確保・維持する取組みとして、市内全域を自由に移動できる交通手段である予約型乗合交通ふれあい号を運行し、地域間幹線系統である広域路線バスや関東鉄道常総線に接続させている。

面積	123.64 km ²
人口（R7.4.1時点）	58,414 人
15歳未満	5,770 人
65歳以上	18,296 人
高齢化率	31.6%

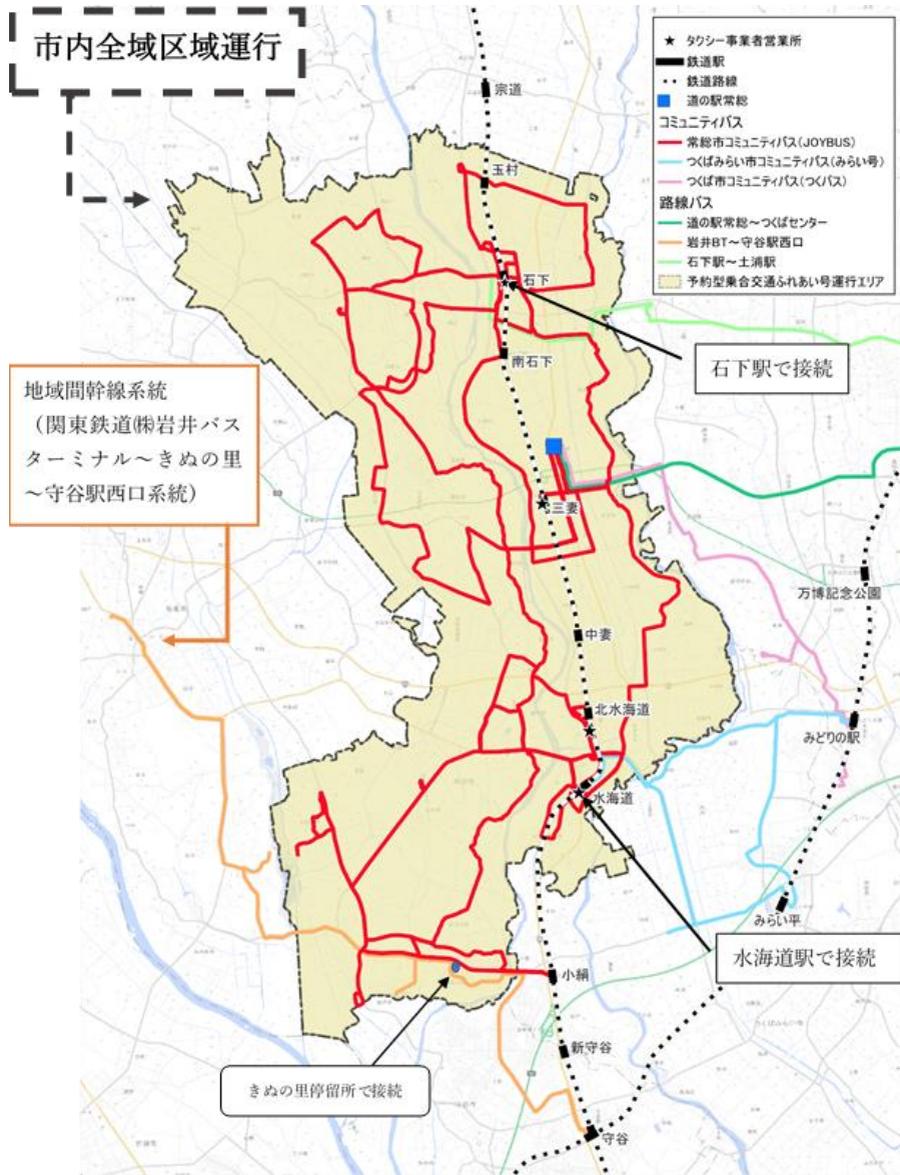
交通計画の計画期間

令和3年度～令和7年度

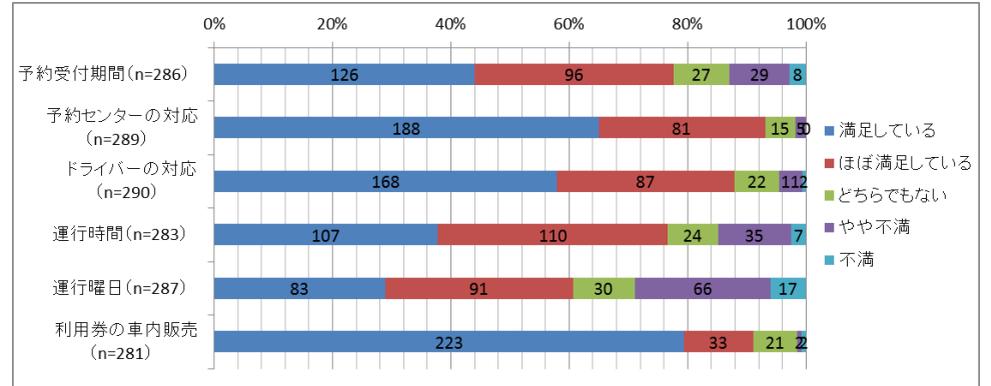
協議会開催状況

- （令和7事業年度に係るもの）
- ・R6第1回協議会（R6.6.25）
R7事業年度フィーダー計画を承認
 - ・R6第2回協議会（R6.10.22）
R7事業年度フィーダー補助金に係る交通計画の変更を承認
 - ・R7第1回協議会（R7.6.19）
R7事業年度フィーダー補助金に係る交通計画の変更を承認
 - ・R7第3回協議会（R7.12.23）
R7事業評価

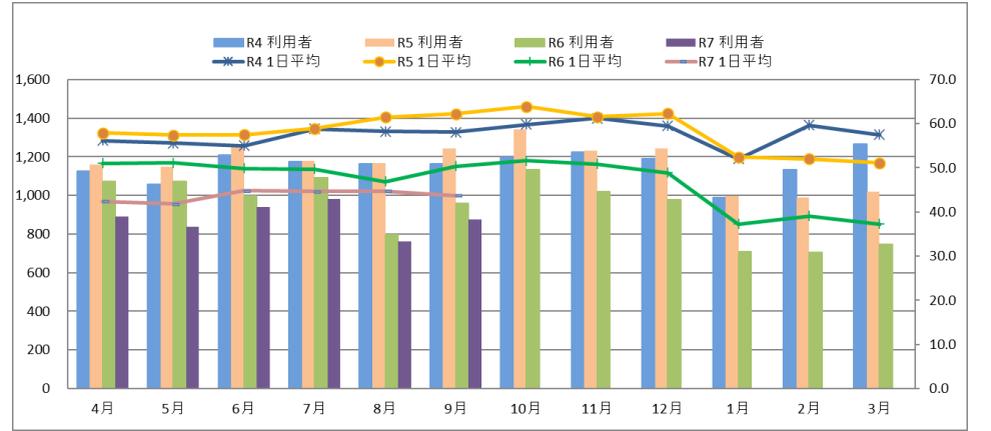
常総市予約型乗合交通運行区域図



【ふれあい号利用者アンケート結果 (H30実施)】



【月別利用状況 (過去3ヵ年比較)】



【年度別利用状況 (4～3月)】

年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7 (4～9月)
運行日数	241日	240日	241日	240日	239日	121日
利用者数	14,356人	13,476人	13,891人	13,981人	11,278人	5,285人
1日平均	59.6人	56.2人	57.6人	58.3人	47.2人	43.7人
登録者数	203人	198人	182人	226人	226人	92人